

Arts Commission Yokohama Annual Report 2007

アーツコミッション・ヨコハマ 平成19年度 事業報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

財団法人横浜市芸術文化振興財団 支援協働グループ



Arts Commission・Yokohama

1. 事業趣旨

横浜市の創造都市政策では、人々が創造性を発揮する社会の実現による都市の魅力を発信するために“創造の担い手”の集積を目指しています。

アーティスト、クリエイター、NPO、市民、企業、学校“創造の担い手”が活動しやすい環境作りを行うことで、この政策を推進します。

アーツコミッション・ヨコハマは、“つなぐ、ふやす、アートの現場”を合言葉に、文化芸術を通じたまちづくりに寄与するあらゆる事業者に対し、中間支援事業を行います。

2. 事業方針

- (1) 情報提供、相談、滞在支援等により、アーティスト・クリエイターやNPO等の創造の核となる人々の活動をサポートします。
- (2) アートの現場をむすび、まちと人とアートのネットワークを生み出します。
- (3) 将来の創造の担い手となる人材の活動を支援します。
- (4) アジアを軸に、アーツコミッション・ヨコハマの作り出すネットワークを広く海外までつなぎます。

3. 事業目標の達成率

横浜市の中期計画の事業「創造界隈の形成」より、アーティスト、クリエイターの誘致数を目安としています。平成22年度までに延べクリエイター等立地促進助成制度の交付件数100件を目標としています。平成18年度までは、16件です。

平成19年度実績 4件 合計20件 【平成19年度目標合計数25件(達成率80%)】

4. 概況

自治体初の試みとして、3ヶ月間の準備で7月にオープンしたアーツコミッション・ヨコハマは、現在、創造都市の形成に欠かせない存在となるべく発展しています。

事業立ち上げ年度として、大きな成果は、事業のメインに置いた相談において多くの問い合わせをいただき、そのため、具体的な、アーティストと行政・企業のマッチングの成果が多数出てきています。また、運営している横浜市芸術文化振興財団のこれまでの活動経験を活かし、芸術文化、経済、まちづくり、福祉など、異なる行政分野を“創造”という切り口で繋ぐことができおり、総合的な政策を目指す創造都市の現場窓口としての役割を果たしています。

5. 事業実績

(1) ACYラウンジ開設

アーツコミッションの中間支援事業の現場となる相談窓口を開設し、多くの方の相談に乗り、担い手が、創造都市で活動しやすい環境づくりを行いました。

【成果】

☆窓口相談160件。誰でも相談できる窓口を実現。

これまでにない相談窓口の開設は、利用者からの好評をいただきました。特にコネクションのない若手の作家や、専門性を求める行政、企業の方から需要がありました。

☆アーティスト、クリエイターと企業、学校、行政との出会いを創出

下記のように、創造都市に参加する人々のプロジェクトをサポートしました。

【マッチング成功例】

☆山手西洋館のクリスマスイルミネーション+まちづくりシンポジウム

山手西洋館からの依頼で、クリスマスイルミネーションの企画について、照明デザイナー、大学とマッチングを図りました。イルミネーションだけでなく、山手のまちづくりにおける照明空間のあり方を地元住民と検討する機会が生まれています。



他にも、経済観光局（デザイナーの紹介）、西区役所（NPO 法人とのマッチング）、都市発展記念館（アーティストの紹介）、tvk番組制作（市内関係者を紹介）、市立小学校へ講師派遣、市内企業とアーティストとの商品開発補助、など多数。

①相談窓口

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
開設日	平成19年7月26日（水）
場所	ZAIM1階
内容	創造都市で活動する人のための何でも相談窓口を開設しました。主にプロのアーティスト等の課題の解決に向けたアドバイス、調整等を行いました。ここで、集積した情報は、今後の創造都市の支援プログラム開発のためにフィードバックされます。また、これらの相談を通じ、いくつかのプロジェクトが起きています。 相談件数 160件（8ヶ月間）



②アートデータバンク

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
内容	アーティスト、クリエイターの情報登録制度を始めました。市内をはじめ、横浜で活動したい多くの方の登録がありました。ラウンジでの開架とホームページでの公開を行っています。 登録者数 33名



(2) アーティスト・イン・レジデンス事業（共催事業）

創造界隈の3拠点であるBankART1929、ZAIM、急な坂スタジオと共催し、海外の芸術家の滞在型事業を行いました。

【成果】

☆レジデンスを通じて、世界の若手作家が横浜で躍動

北京、台北、イスラエル、横浜と世界の最先端の活動が繋がりました。横浜で作られた作品が、世界の他都市で発表され、また横浜で選ばれた作家の発表の機会にもなっています。

☆アーティストと横浜との交流の機会を演出。身近な創造都市。

若手作家の招聘は、横浜のアーティスト、NPO、市民の手によって支えられています。どの団体も日本人の作家やキュレーター、大学生、市民によるチームを形成して、作家を支援することで、様々な効果を生み出しています。

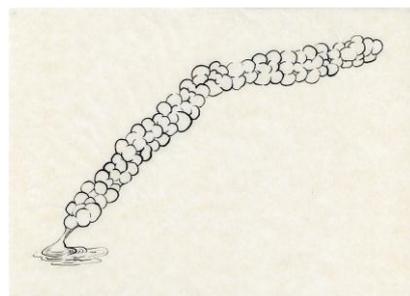
①急な坂国際交流レジデンス Vol.1

主体	急な坂スタジオ
期間	平成19年9月19日（水）～10月29日（月）
会場	急な坂スタジオ、のげシャール
内容	来日作家：アルカディ・ザイデス（イスラエル） 1ヶ月間にわたり横浜で、日本人の作家、地元の建築家・映像作家との共同作業を通じて、取材・制作・公演を行いました。期間中は、トークライブ、ワークショップなど、多くの人と交流する機会を設けました。 来場者数：トーク32名、ワークショップ51名、公演：99名



②台北市・横浜市アーティスト交流プログラム

主体	BankART1929、台北国際藝術村
期間	横浜：平成20年1月28日（月）～4月4日（金） 台北：平成20年2月1日（金）～4月20日（日）
会場	BankART NYK Studio
内容	来日作家：何明桂／ホー・ミンクエイ（台北市） 派遣作家：村田峰起（横浜市） 平成17年度から続いている台北市、横浜市の芸術家交流事業を横浜市から引き継ぎ、開催しました。台北国際藝術村とBankARTの公募で選ばれた芸術家が、各都市で地元の作家や市民と交流しながら、滞在制作を行い、作品発表を行いました。



③北京市とのアーティスト・イン・レジデンス交流事業

主体	ZAIM
期間	平成 20 年 2 月 14 日（木）～ 3 月 31 日（月）
会場	ZAIM4 階・和室
内容	<p>来日作家：遅鵬／チー・パン（北京市）</p> <p>平成 18 年度からはじまった北京市、横浜市の交流事業を引き継ぎ開催しました。北京現地の美術館学芸員・キュレーター・美術大学の推薦を受けた新鋭のアーティストを招聘し、地元の作家、学芸員、市民等と交流を行い滞在制作・公開を行いました。</p> 

(3) 創造都市横浜の広報活動

創造都市・横浜を内外に発信していくため、クリエイティブ・シティの広報活動を行いました。また、今後、戦略的な広報活動を行うため、アドバイザーを起用し、将来を見据えたプランニングをしています。

【成果】

☆市内初となるアート系拠点だけを集約したマップが大人気に。

ライブハウス、ギャラリーなど民間施設も集めたアート専門マップが大好評をいただきました。創造都市の活況を視覚化することに成功し、ホテルからの需要が高いことから、観光資源の再発見化に効果が出ています。

☆クリエイティブ・シティ広報戦略の整理

対象や手法を明確化させ、平成 20 年度のトリエンナーレ期間中の大型事業実施に向けた広報戦略を立てることができました。

①アート&カルチャー ヨコハママップの発行

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
内容	<p>創造都市のエリア全体を周知のためのマップを制作。都心部の 180 箇所を超えるアートスポットの情報を網羅。文化系施設だけでなく、ホテルや観光案内所などでも配布した。</p> <p>【仕様】 A3 二つ折り 8P/4C 和文（青）4 万部、英文（赤）2 万部</p> <p>【発行月】 平成 20 年 3 月</p> <p>【デザイナー】 TOKUMA (bowl graphics)</p> 

②創造都市プロモーション

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
内容	創造都市の発信力強化に向け、専門アドバイザーと契約し、関係者とのヒアリングを行い、当面の広報活動の提言をまとめました。また、この提言は、アーツコミッションの広報戦略にも反映させていきます。 【創造都市 PR アドバイザー】 市川照仔（金沢大学広報戦略室長、前金沢 21 世紀美術館広報担当）

③アート情報データベース構築

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
内容	都心部のアート情報を効率的に発信するため、財団広報情報グループに集約される情報を整理するデータベースを構築します。これと同時に、アーツコミッションのホームページの本格稼働に向けたコンサルティング作業を行います。平成 20 年 9 月の一般公開に向け、準備を進めています。

(4) 芸術不動産事業

アーティスト、クリエイターと不動産とのマッチングを支援のシステム作りに着手しました。当初の目標は、民間事業者と協働で、支援事業を立ち上げることでしたが、適わず、専門家のアドバイザー契約を行い、アーツコミッション自らが、オーナーの要望を受けることや、アーティストのフォローを行いました。

【成果】

☆野毛マリヤビル・ホワイトの誕生！

アーティストが、集積した物件を望む傾向にあるため、建物 1 棟を丸々をアート転用するプロジェクトも実験的に関与しました。結果、民民で新たに創造拠点が生まれました。

物件名	野毛マリヤビル ホワイト
入居	平成 20 年 2 月
運営主体	BankART1929
経緯	<p>横浜市まちづくり調整局と NPO 法人横浜プランナーズネットワークの協働事業「空き家活用事業」から相談を受ける。オーナーが、アート系の転用を希望されたため、アーツコミッションが事業者とのコーディネートを図る。</p> <p>創造界隈エリアの野毛地域ということもあり、次年度の黄金町の展開を睨み、大岡川沿いに馬車道エリアとの連結点とすべく、BankART へオファーを行う。</p> <p>オーナー側との調整の末、春オープン予定で、2 月からの入居が決まった。</p>



(5) 若手・学生支援事業

多くの学生がアート活動する都心部を目指して、卒業展の支援を行いました。

【成果】

☆総計23校の美術大学、専門学校が参加！レポーターは市民のサイトがオープン
横浜で集中的に開催されている卒業展に注目し、その支援を行うことで、大学、学生の活動しやすい環境づくりに寄与。市民が作家活動を応援する横浜を目指して、市民NPOとの協働でサイトを運営しています。

①ソツテンサイトの運営

主体	NPO 法人 YCAP、アーツコミッション・ヨコハマ
内容	横浜都心部で1月～3月に開催される美大、専門学校の卒業展覧会を支援するために、ブログポータルサイトを立ち上げました。 【機能】 <ul style="list-style-type: none">・都心部で開催される卒業展一覧・市民レポーターによる紹介・大学生による自主運営。



(6) 都心部施設連携事業の推進

創造都市の総合力発揮を目指して、創造界隈を点から面の活動へと拡げていくため、都心部の拠点が交流する機会を設けました。

【成果】

☆官民を越えた初のネットワーク作り

市内初となる官民を越えた都心部連絡会は、有効な情報交換の場となり、参加者からも高い評価をいただき、次回への期待が高まっています。

☆舞台芸術施設の交流とアーティストへの段階的支援の共同意識形成へ

急な坂スタジオと行った「ヨコハマ劇的空間ツアー」は、施設間の交流が進むと共に、横浜の舞台芸術を支える共同意識が形成され、段階的な支援体制作りのきっかけとなっています。

①横浜市都心部創造拠点連絡会

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
日時	平成20年1月29日(火) 16:00～18:00
会場	BankART Studio NYK カフェリブ
内容	市、市外郭、県立施設、国立大学、民間施設などが組織の枠を超え、創造拠点の担当者、責任者が、情報交換、交流を図る機会を設けました。活発な意見交換が交わされました。(参加施設/団体: 14)

②急な坂フィールドワーク ヨコハマ劇的空間ツアー

主体	急な坂スタジオ
関わり	共催事業／見学場所のブッキング調整、急な坂とのマッチング
日時	平成19年6月27日(水)、8月7日(火)、9月21日(金) 全3回
会場	市内の劇場、アトスポットなど
内容	「発表・創作の場」を求めるアーティストと、様々な横浜ならではの魅力的なスポットを繋げるツアーを開催しました。これは、劇場間同士の交流の場としても機能しています。

(7) シンポジウム・その他事業

アートとまちづくりの関係の重要性を周知していくこと、アーティストを側面から支援すること目的に、シンポジウムや事業を開催しました。

【成果】

☆まちづくり×アート×市民協働セクターのコラボレーション

芸術文化、経済、福祉、緑化などの関係者が“まちづくり”をテーマに

①あなたとわたしの街～アートを活かしたまちづくり

主体	アーツコミッション・ヨコハマ 横浜市都市整備局 横浜市市民活動支援センター
日時	第1回平成20年3月9日(日) 13:30~17:00 第2回平成20年3月15日(土) 13:30~17:00
会場	横浜開港資料館、なか区民活動センター
内容	<p>第1回「アートの力でまちを変える」をテーマに前半は、寿町ホステル、伊勢佐木町の拠点、旭区の福祉施設といった横浜市の事例紹介、後半は、仙台市、近江八幡市の事例をゲスト招いて紹介した。第2回は、まち普請事業、創造都市推進課、文化振興課の各種助成制度の紹介と、アーティスト、市民、NPOなど、アートとまちづくりの人材が交流する機会を設けた。</p> 

②ふたつのアートミーティング

主体	アート・オートノミー・ネットワーク (AAN)	
日時	第1回平成20年3月29日(土) 14:00~18:00 第2回平成20年3月30日(日) 14:00~18:00	
会場	ZAIM	
内容	<p>ロンドンで活動するアート組織「PILOT」、横浜で活動するAANが、日本における新しい芸術支援のかたちを協議しました。</p> <p>アーティストが国際的な活動をするにあたり、どのようなプレゼンテーションをしていくべきかを専門家をゲストに迎え、レクチャーを行いました。</p>	 <p>The poster for 'Two Meetings for the Arts' features a collage of images related to art and culture. It includes the text 'Two Meetings for the Arts' in large letters, with 'ふたつのアートミーティング' below it. The dates '3/29 Art Archive Meeting' and '3/30 Portfolio Meeting' are also visible. Logos for AAN, PILOT, and ACT are at the bottom.</p>

(8) 情報発信事業

○リーフレット、ホームページを作成し、活動情報を発信しました。

リーフレット 12,000部



ホームページ開設



○メールニュースの活用

文化政策学会、NPO向けメールニュースなどのコミュニティを活用し、情報発信を行いました。

○リリース

事業開設。アーティスト・イン・レジデンス事業、アート&カルチャー ヨコハママップ等の各種事業において、リリースを発行しました。